

会場 情文ホール(横浜市中区日本大通11 横浜情報文化センター6階)

*横浜ユーラシア文化館の隣り。

参加料 1000円

定員 200人

*お申し込み多数の場合は抽選。

申込方法 住所・氏名・電話番号・申込人数を明記し、往復ハガキ、または電子メールでお申し込みください。1通につき2名様まで。2名様でお申し込みの場合は同伴者のお名前もお書きください。

申込締切 2008年4月16日(水)(消印有効)

お申し込み・お問い合わせ

〒231-0021 横浜市中区日本大通12

横浜ユーラシア文化館「講演会」係

Tel. 045-663-2424

E-mail: info@eurasia.city.yokohama.jp

演題と講師(予定)

「フスタート遺跡の発掘調査とガラスを通してみたエジプト」

真道洋子(イスラーム考古学研究所研究員)

「中世エジプト都市フスタートの食べ物と生活」 尾崎貴久子(防衛大学専任講師)

「カーリミー商人と砂糖・香辛料貿易」

佐藤次高(早稲田大学教授・東京大学名誉教授)

開館5周年記念特別企画

「みんなでエキスポー—小さな万国博覧会—」

The Museum of Yokohama Urban History

and the Yokohama Museum of EurAsian

Cultures: Museums' 5th Anniversary

"Minna-de EXPO" (Exposition that we all participate in).

2008年6月5日(木)~8月31日(日)

Thursday, June 5 to Sunday, Aug. 31, 2008

利用案内 Visitor Information

横浜ユーラシア文化館

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12

12 Nihon Odori, Nakaku, Yokohama, Japan 231-0021

Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

http://www.eurasia.city.yokohama.jp/

開館時間 9:30 a.m.~5:00 p.m.

(入館は4:30 p.m.まで)

休館日 毎週月曜日・年末年始ほか

入館料 一般200円

小・中学生100円

企画展開催時には別料金になることがあります。

毎週土曜日は小・中学生、高校生無料。

「障害者手帳」横浜市「長寿のしおり」等をお持ちの方には、入館料の減免制度がありますのでお尋ねください。

Hours 9:30 a.m.~5:00 p.m.

(Admission until 4:30 p.m.)

Closed Mondays (except 5/5, 6/2, 7/21),

5/7, 5/20, 6/3, 6/4, and 7/22

Admission ¥200 for adults

¥100 for primary and junior-high-school students



交通アクセス

みなとみらい線日本大通り駅3番出口から徒歩0分

JR関内駅南口・市営地下鉄関内駅1番出口から徒歩約10分

Zero min. walk from Nihon Odori Sta. on the Minato Mirai Line.

10 min. walk from Kannai Sta. on the JR Line or Municipal

Subway.

臨時開館・休館のお知らせ(2008年4月~8月)

開館する月曜日 5月5日、6月2日、7月21日

月曜以外の休館日 5月7日(水)、5月20日(火)、

6月3日(火)、6月4日(水)、7月22日(火)

News from EurAsia No.9

横浜ユーラシア文化館ニュース第9号

企画・編集・発行 横浜ユーラシア文化館 2008年3月15日

デザイン/有オフィスエルク

印刷製本/ソルミ印刷(株)

禁無断転載

©2008 Yokohama Museum of EurAsian Cultures



News from EurAsia

横浜ユーラシア文化館ニュース

■ 目次 Contents

アートウォッチング p.2

Art Watching

エジプトの小さなガラスの円盤

—中世イスラーム都市のくらし—

Small Glass Disks Manufactured in Egypt

—Aspects of Urban Life of Egypt

in the Islamic Period—

竹田多麻子 Tamako Takeda

ギャラリートーク p.4

Gallery Talk

古代ローマのコイン —常設展示室から—

Ancient Roman Coin:

From Our Permanent Exhibition

福原庸子 Yasuko Fukuhara

コラム p.6

Column

原油価格の高騰に潤うペルシア湾岸産油国

The Rise of Oil Price Enriches Countries

in the Persian Gulf

廣瀬徹也 Tetsuya Hirose

展覧会・イベントのご案内 p.7

Special Exhibitions and Events

利用案内 p.8

Visitor Information

横浜ユーラシア文化館
Yokohama Museum of EurAsian Cultures

no. 9

Art Watching アートウォッチング

エジプトの小さな ガラスの円盤

—中世イスラーム都市のくらし—

Small Glass Disks Manufactured in Egypt

—Aspects of Urban Life of Egypt in the Islamic Period—

竹田多麻子 Tamako Takeda

色とりどりのガラスで作られた円盤。「おはじき」のようにも見えますが、これは、中世イスラーム時代のエジプトで製造された計量用の道具です。

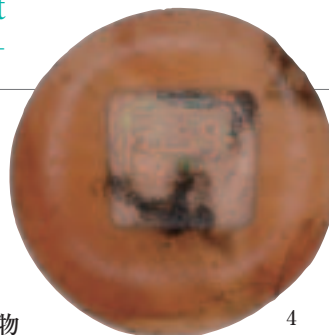
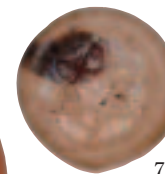
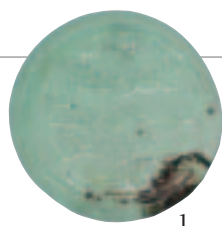
この円盤には2種類あり、1つはコイン、肉や果物など品物の重量を量るための重り(ガラス・ウェイト)。不正や欠陥を見つけやすいように金属ではなくガラスで作られたと言われています。もう1つは、香辛料、油のような乾物や液体の商品を量るためのガラス製計量容器についていたスタンプ(ヴェセル・スタンプ)です。

円盤の表面には、アラビア文字、コプト数字、マークでこの道具に関するさまざまな情報が記されています。これらを読み解くと、8～13世紀ごろの中世エジプトの都市生活を垣間見ることができます。

これらのガラスの円盤は本当に小さなものですが、歴史を物語る貴重な資料です。今回の企画展では、ブーヴィエ・コレクションのガラス・ウェイトとヴェセル・スタンプを日本で初公開します。

参考文献 企画展図録「エジプトの小さなガラスの円盤—中世イスラーム都市のくらし—」川床睦夫監修
横浜ユーラシア文化館編集・発行 2008年
所蔵 ブーヴィエ・コレクション
Owned by the Bouvier Collection
写真提供 イスラーム考古学研究所
Photographs©Research Institute for Islamic Archaeology and Culture

This special exhibition introduces “small glass disks,” or weights, from the Bouvier Collection manufactured in



1. ガラス・ウェイト(ウマイヤ朝 661—750年) 1 ディーナール金貨を量る。
2. ヴェセル・スタンプ(ウマイヤ朝 661—750年) 白クミンを量るための計量容器についていたスタンプ。
3. ガラス・ウェイト(ウマイヤ朝 661—750年) 肉の重量を量る。
4. ガラス・ウェイト(アッバース朝—トウルーン朝868—905年) 1 ウィキヤという単位のリ。
5. ガラス・ウェイト(アッバース朝 749—1258年) 銅貨の重量を量る。
6. ガラス・ウェイト(ファティマ朝969—1171年) 第5代カリフ(政教の最高指導者)のアズィーズの名前が記されている。
7. ガラス・ウェイト(マムルーク朝 1250—1517年) 2つの三角形を組み合わせた星のマーク。

写真は実寸

Egypt during the Islamic period. The transparency of glass was more suitable than metal as the former clearly revealed defects as well as illicit tricks. Among the glass disks, “glass weights” were used to weigh coins, meat, and fruits on the scales, while “vessel stamps” were attached to glass vessels that measured oils and spices. The Arabic inscription on the surface of the disks gives valuable information concerning Islamic Egypt of the 8th to the 13th centuries.

Many of the glass disks were discovered at al-Fusṭāṭ (south of present-day Cairo), the site of the oldest Islamic city in Egypt. The present exhibition also displays pottery, glassware, accessories, and daily utensils unearthed at

this site to illustrate various aspects of urban life of Islamic Egypt.

English abstract by Yasuko Fukuhara

Small Glass Disks Manufactured in Egypt
—Aspects of Urban Life of Egypt in the Islamic Period—

エジプトの小さな
ガラスの円盤

—中世イスラーム都市のくらし—

2008年1月26日(土)～5月18日(日)

開館時間 9:30 a.m.～5:00 p.m.
(入館は4:30 p.m.まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、5/7
Closed on Mondays (except 5/5) and 5/7.

入館料 一般500円 小・中学生250円

ブーヴィエ・コレクションのガラス・ウェイトおよびヴェセル・スタンプと、エジプト最古のイスラーム都市であるフスタート遺跡から出土したさまざまな資料を通して、中世のエジプト都市に暮らした人々の豊かな生活をご紹介します。

Gallery Talk ギャラリートーク

古代ローマのコイン —常設展示室から—

Ancient Roman Coin: From Our Permanent Exhibition

福原庸子 Yasuko Fukuhara

コンスタンティヌス大帝 記念コイン

Commemorative Coin of
Constantine I, the Great

銅
帝政ローマ330～346年頃発行
径 18 mm
重量 24 g

Copper
ca. Roman 330-346 C.E.
Diam. 18 mm
Weight 24 g



▲ 表 Obverse



◀ 裏 Reverse

コンスタンティヌス大帝(在位307～337年)は、それまで分割統治されていたローマ帝国を再統一し、はじめてキリスト教を公認したローマ皇帝です。彼は帝国の首都をローマからコンスタンティノポリスに移しましたが、この遷都(330年)を祝してコンスタンティヌスと息子たちの時代(330～346年)に発行された代表的な記念コインが、ここに紹介する銅貨です。

西洋のコインは鋳型を用いず、一定の重量の金属片を2つの型の間に挟んで両面同時に打刻しました。刻印はコインを公的に保証するマークです。このコンスタンティヌス大帝記念コインには、表に帝国の首都であったローマを神格化した女神ローマとラテン語「VRBS ROMA」(都市 ローマ)の文字。裏にはローマ創建の伝説上の始祖である双子ロムルスとレムスが狼の乳を飲む姿で表されています。狼の上方にはふたご座を象徴するように2つの星が見えます。ラテン文字「CONS?」はこのコインがコンスタンティノポリスで製造されたことを示し、最後の文字が「S」であれば、数字の6を意味し、第6工房で製造されたことが特定できます。

Constantine I, the Great (r. 307-337 C.E.), the first Roman emperor to profess Christianity, and his sons issued a series of coins from 330-346 C.E. to commemorate the transfer of the capital from Rome to Constantinople (330), and to recognize the city of Rome as the traditional center of the empire. Therefore, the portrait on the obverse is the goddess Roma, and the legend reads VRBS ROMA, or City Rome. On the reverse are the legendary founder of Rome Romulus and his twin brother Remus nursed by a wolf, and the letters CONS? in the exergue. CONS is a mint mark showing that the coin was made at Constantinople. And the last letter, which looks like S, should stand for "the sixth officina (workshop)." Two stars appear above the wolf, probably representing Gemini.



館蔵コインの一部
Coins from the Museum's Collection

原油価格の高騰に潤うペルシア湾岸産油国

The Rise of Oil Price Enriches Countries in the Persian Gulf

廣瀬徹也 Tetsuya Hirose

中世の中東イスラーム世界においてエジプトが交易の中心として栄えた証がガラスの円盤であったとすれば、21世紀の中東イスラーム世界においてペルシア湾（アラビア湾）の産油国が交易と金融の中心として栄える証が航行する巨大タンカーと日本製や韓国製の電化製品などを運ぶ昔ながらのダウ船である。

近年、経済のグローバル化の中で、利子をとらないシステムを特徴とするイスラーム銀行などイスラーム金融は、湾岸産油国を筆頭に中東、アジア諸国で年平均15%を上回る急速な拡大を続けており、全世界のイスラーム金融機関の総資産は2010年には1兆ドルを超えるとの試算もある（2月9日日経）。湾岸の物流、金融、交通の要道バイでは手に入らない商品はないといってもよく、7つ星のホテルもある。

原油価格は中国、インド、米国を筆頭に世界的な強い原油需要、中東など

産油国の政情不安による地政学的リスクの高まり、原油市場への年金基金やヘッジファンドなど投機資金の流入等を背景に、高騰しWTI価格で2008年初頭には遂に1バレル100ドルの壁を越えた。今後上下しつつ高値が続くだろう。消費国側からは原油価格沈静のために増産を求める声が高まっていたが、石油輸出国機構（OPEC）は2月1日の臨時総会では石油生産量を据え置くことで合意したようだ。第三次オイルショックの発生も懸念される一方、産油国は増収に潤う。

宿敵サッダー・フセインが倒されて以来、シーア派をてこするイランの中東における存在感が高まり、米国や親米的な湾岸諸国は警戒していたが、昨年12月イランのアフマディネジャード大統領がカタールの首都ドーハで行われた、サウジアラビアなどスンナ派の湾岸6か国で構成する「湾岸協力会議」にイラン首脳として初参加するなど緊張緩和が図られている。ハンドボールの北京オリンピック最終予選でクウェートなど湾岸諸国のチームにひいきした「中東の笛」を吹いた審判がイラン人だったのは象徴的である。判定に不満な日韓両国が国際ハンドボール連盟に直訴して再試合が行われたことに対し、事実上クウェートの王族が組織を支配するアジアハンドボール連盟（AHF）は日韓への制裁を決定、

アーマド・AHF会長は東京オリンピック構想の不支持をのべたと報じられているが、禍根を残さない努力が双方に求められる。

一方中東におけるインターネット、メディア、携帯電話の普及はテロや犯罪組織のルーズなネットワークの形成と戦術の多様化を助けているのも見逃せない。また、イランが累次の安保理決議を無視してウラン濃縮を続ければ、米国はペルシア湾入り口のホルムズ海峡の封鎖に出る可能性はある。その時日本はどうか。

日本は原油輸入の85%を中東に依存する。日本政府は、中東諸国との対話と協力、テロとの戦い・地域の平和と安定の実現・復興支援に向けた国際努力への貢献、そして日本企業の石油開発参加への支援といった面で一層の努力を払うべきであろう。

Under economic globalization the oil producing countries in the Persian Gulf have become the hub of trade, banking

and transportation systems in the Middle East. They benefit from recent rise of crude oil price caused by various reasons such as rising global oil demand, geopolitical risks in some oil producing countries and inflow of speculative capital into the oil market.

Japan has highly depended on crude oil imports, the share of Middle Eastern oil supply being over 85% in recent years. The Japanese government should expand its efforts in promotion of dialogue and cooperation with Middle Eastern countries, contribution towards international endeavors in fight against terrorism, realization of peace and stabilization and support for reconstruction in the region, and provision of support for Japanese companies in oil development projects.

（アジア・太平洋国会議員連合中央事務局事務総長 Secretary-General, the Central Secretariat of Asian-Pacific Parliamentarians' Union）

Special Exhibitions and Events

展覧会・イベントのご案内

企画展 Special Exhibition 2F-3F

エジプトの小さなガラスの円盤
—中世イスラーム都市のくらし—
Small Glass Disks Manufactured in Egypt
—Aspects of Urban Life of Egypt in the Islamic Period—

2008年1月26日（土）～5月18日（日）
Saturday, Jan. 26 to Sunday, May 18, 2008

入館料 一般 Adults ¥500
小・中学生 Children ¥250

関連講演会

「中世エジプトの都市とくらし」
Lectures "Urban Life of Egypt in the Islamic Period" (In Japanese)

2008年4月26日（土）10:00～16:15
*受付開始9:30



ドバイの高層ビル群 写真撮影 大曲祐子
Skyscrapers in Dubai. Photograph by Yuko Omagari.